

科目名	社会福祉原論特講
科目責任者	大友 信勝
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	貧困・格差が広がり、貧困の連鎖・重層化が進んでいる。社会福祉専門職の身分・待遇がゆれている。時代の転換期を迎え「社会福祉とは何か」、が揺らいでいる。先行研究を批判的に検討し、新たな研究動向に注目しながら、これからのあり方を問題提起できるように授業を進める。
到達目標	社会福祉原論領域の先行研究を批判的に検討し、その到達点を評価し、そのうえで、何が問題点と課題か。乗り越えるべき点はどこにあるのかを明らかにしていく。また、各自の研究テーマ、研究方法を設定できるようにするのが目標である。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：院生の研究テーマ、研究関心にそって、博士論文作成に資する研究・調査方法をうちだしていく。</p> <p>第3回：論文の独自性、開拓性を重視し、今、何故その研究テーマなのか浮き上がるように検討する。</p> <p>第4回：社会福祉学における創造的な研究とは何か。その視点と研究方法を追求する。</p> <p>第5回：博士論文テーマ、研究領域、研究方法のアウトラインを決める。</p> <p>第6回：博士論文テーマに関わる先行研究のリストアップ、その理由、根拠を確認。</p> <p>第7回：博士論文と学会動向にみる研究の特徴や傾向、問題点と課題を考察。</p> <p>第8回：代表的な先行研究を数点に絞り、その分析と評価を行う。</p> <p>第9回：論文の研究・調査方法と仮説—研究の枠組み、方法、どのように研究するか。</p> <p>第10回：既存の調査報告書、代表的論文の特徴と評価—研究課題にいかすべき点は何か。</p> <p>第11回：社会福祉学と貧困研究—貧困の実態と政策動向</p> <p>第12回：貧困研究の文献資料と研究方法—代表的な著作に何を選ぶか。その理由と根拠は。</p> <p>第13回：社会福祉実践の現場におけるレポート、実践記録、報告書の分析と評価。</p> <p>第14回：社会福祉原論と専門職アイデンティティ</p> <p>第15回：博士論文の構成やデータ、活用すべき資料の整理と検討。</p> <p>社会福祉原論特講は院生の研究テーマ、研究関心にそって、柔軟に対応する。博士論文作成につながる授業を展開する。</p>

学修方法	講義を中心に行うが、適宜「討議」を組み合わせで行う。
評価方法	レポートや博士論文検討会の発表 50%、論文の進行 50%
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談やメール等でフィードバックを行う。
指定図書	『公的扶助の展開—公的扶助研究運動と生活保護行政の歩み』旬報社
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を調べてくる。(40分) 事後学修：講義内容について、振り返り整理しておく。(40分)
オフィスアワー	研究室(5703)にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示する。

科目名	社会福祉原論特講演習
科目責任者	大友 信勝
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる
科目概要	博士後期課程の社会福祉原論特講演習は、博士論文作成に向け、院生と研究協議しながら進める。特に博士論文のテーマや枠組み、研究方法の独自性、開拓性が十分であるかどうか。学術論文に取り組む社会科学的な視点や方法について議論しながら進める。
到達目標	博士論文についてイメージがわくように、十分な研究協議を重ね、独自性、創造性を工夫し、論文作成の準備に入る。特に、先行研究の業績調査、分析、評価を重視し、到達点と課題を明確に描き、開拓性を明確に打ち出し、自立した研究者への出発が目標である。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：社会福祉原論をなぜ、「社会福祉と貧困」から切り込むのか</p> <p>第 3 回：社会福祉原論は、社会的に最も困難な立場にある人々の人権・尊厳、生活と生命に関わる領域の研究である。社会福祉の歴史から、生存権や平等の理念が形成されるまでの試練や努力を学び、今日的課題と繋げて考察する。</p> <p>第 4 回：博士論文の研究テーマ、研究（調査）方法、研究の枠組みを設定する。</p> <p>第 5 回：博士論文の独自性、開拓性がどの点にあるのか。テーマや主要項目、研究方法とつき合わせて検討する</p> <p>第 6 回：各自が先行研究の業績リストを作成し、レビューの分類・整理を行い、準備を整える。</p> <p>第 7 回：先行研究の分析において、自らの言葉で評価、批判、課題提起を行う。</p> <p>第 8 回：研究・調査方法を再度検討し、最終的に決定する。その上で、倫理審査を受け、調査やデータの作成に入る</p> <p>第 9 回：論文に必要なデータ（実証）の作成、整理、確認を行う。</p> <p>第 10 回：中間段階で、院生や、学内外の研究者から学会発表や何らかの研究発表の機会を作り、批判やコメントをいただく。その機会を活用し、問題意識や焦点の絞込みを行う。</p> <p>第 11 回：データ処理、解析の方法、比較研究、量的・質的研究方法を自分の論文と付き合わせる</p> <p>第 12 回：草稿をまとめる作業に入る。論旨、枠組み、データのアウトラインを書きながら、不十分なところを早く手当てできるように準備する</p> <p>第 13 回：研究テーマと目的が、論旨や枠組みと整合しているか。同じようなことが出てくる重複はないか。逆に、説得力を持たせる上で弱いところがないかを確認する</p> <p>第 14 回：草稿の論旨と理論（仮説）、実証が整合しているか。最終的にチェックする</p> <p>第 15 回：特講演習で草稿を研究発表する。批判や助言を謙虚に受け止め、提出論文にいかす</p> <p>以上は、院生の研究テーマ、研究方法によって、差し替えや補足等が十分にありうる。院生と協議しながら、柔軟に個別性を生かして対応したい</p>

学修方法	各自の研究発表や討議を中心とし、適宜、先行研究等のミニ講義を行う
評価方法	博士論文作成に向けた準備、取り組みを評価する。(100%)
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談、またはメール等でフィードバックする
指定図書	特に、指定しません
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を討議できるようにしておくこと。(40分) 事後学修：授業内容について、振り返り整理しておくこと。(40分)
オフィスアワー	研究室(5703)にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業時に提示します

科目名	ソーシャルワーク特講
科目責任者	大友 信勝
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	貧困・格差が広がり、貧困の連鎖・重層化が進んでいる。社会福祉専門職の身分・待遇がゆれている。時代の転換期を迎え「社会福祉とは何か」、「ソーシャルワークのアイデンティティは何か」が揺らいでいる。先行研究を批判的に検討し、新たな研究動向に注目しながら、これからのあり方を問題提起できるように授業を進める。
到達目標	社会福祉・ソーシャルワーク領域の先行研究を批判的に検討し、その到達点を評価し、そのうえで、何が問題点と課題か。乗り越えるべき点はどこにあるのかを明らかにしていく。また、各自の研究テーマ、研究方法を設定できるようにするのが目標である。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：院生の研究テーマ、研究関心にそって、博士論文作成に資する研究・調査方法をうちだしていく。</p> <p>第3回：論文の独自性、開拓性を重視し、今、何故その研究テーマなのか浮き上がるように検討する。</p> <p>第4回：社会福祉学における創造的な研究とは何か。その視点と研究方法を追求する。</p> <p>第5回：博士論文テーマ、研究領域、研究方法のアウトラインを決める。</p> <p>第6回：博士論文テーマに関わる先行研究のリストアップ、その理由、根拠を確認。</p> <p>第7回：博士論文と学会動向にみる研究の特徴や傾向、問題点と課題を考察。</p> <p>第8回：代表的な先行研究を数点に絞り、その分析と評価を行う。</p> <p>第9回：論文の研究・調査方法と仮説—研究の枠組み、方法、どのように研究するか。</p> <p>第10回：既存の調査報告書、代表的論文の特徴と評価—研究課題にいかすべき点は何か。</p> <p>第11回：社会福祉学と貧困研究—貧困の実態と政策動向</p> <p>第12回：貧困研究の文献資料と研究方法—代表的な著作に何を選ぶか。その理由と根拠は。</p> <p>第13回：社会福祉実践の現場におけるレポート、実践記録、報告書の分析と評価。</p> <p>第14回：ソーシャルワークと専門職アイデンティティ</p> <p>第15回：博士論文の構成やデータ、活用すべき資料の整理と検討。</p> <p>ソーシャルワーク特講は院生の研究テーマ、研究関心にそって、柔軟に対応する。博士論文作成につながる授業を展開する。</p>

学修方法	講義を中心に行うが、適宜「討議」を組み合わせで行う。
評価方法	レポートや博士論文検討会の発表 50%、論文の進行 50%
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談やメール等でフィードバックを行う。
指定図書	『公的扶助の展開—公的扶助研究運動と生活保護行政の歩み』旬報社
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を調べてくる。(40分) 事後学修：講義内容について、振り返り整理しておく。(40分)
オフィスアワー	研究室(5703)にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示する。

科目名	ソーシャルワーク特講演習
科目責任者	大友 信勝
単位数他	1単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる
科目概要	博士後期課程のソーシャルワーク特講演習は、博士論文の作成に向けた研究計画、方法を院生と協議しながら進める。特に、博士論文の独自性、開拓性、社会科学的な視点・方法について議論しながら進める。
到達目標	先行研究の調査、分析、評価、次いで実践・研究動向の分析、評価、自らの論文の開拓性、創造性の確認、研究・調査方法、自立した研究になっているか。以上の事項を到達目標に組み入れ手取り組む。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：研究計画とスケジュール、研究方法、研究の重点と独自性・開拓性について</p> <p>第3回：ソーシャルワーク研究の創造的研究とは何か</p> <p>第4回：研究テーマに沿った先行研究の分析・評価</p> <p>第5回：代表的な先行研究について事例分析</p> <p>第6回：ソーシャルワーク研究動向の分析・評価</p> <p>第7回：特徴的なソーシャルワーク研究の事例分析</p> <p>第8回：ソーシャルワークにおける実践記録、調査報告についての分析・評価</p> <p>第9回：国際的なソーシャルワーク研究の動向についての分析・考察</p> <p>第10回：国際的な研究動向とわが国の研究動向についての関連、独自性を比較研究</p> <p>第11回：高度専門職の倫理(思想)と専門性</p> <p>第12回：博士論文のデータ処理、比較研究のまとめ</p> <p>第13回：到達目標の確認と草稿作成</p> <p>第14回：草稿の論旨、方法、理論、体系性について</p> <p>第15回：草稿の発表と改善課題の確認</p> <p>授業内容は院生と協議しながら、授業計画の順番は適宜差し替えや補足等をしながら柔軟に、個別的に対応していきたい</p>

学修方法	各自の自主的な発表、報告を中心とし、十分な協議を組み入れて行う
評価方法	博士論文作成に向けた準備、取り組みを評価する(100%)
課題に対するフィードバック	課題提出後において面談やメール等でフィードバックする
指定図書	特に指定しない
参考書	授業中に随時紹介する
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を討議できるようにしておくこと(40分) 事後学修：授業内容について、振り返り、整理しておくこと(40分)
オフィスアワー	研究室(5703)において、自由に研究上の相談に応じます、時間については、初回授業時に提示します。

科目名	こども家庭福祉特講
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	わが国の子ども虐待への対策は、1990年代ごろより開始され、2000年に「児童虐待の防止等に関する法律」が制定された後も多くの通知やガイドラインが出され、児童福祉法も数回にわたって改正された。しかし、児童相談所における子ども虐待相談件数の増加は止まることがない。子育てに孤立感を抱く保護者やネグレクト状態の家庭への支援が進められているにもかかわらず、状況の改善は困難を極めている。子ども虐待防止として多くの対策が次々と打ち出されていく中でソーシャルワークと臨床心理学の観点から、あらためて現状への検証を加えていく。そして、ソーシャルワークの役割と機能を明確にしなが、これからの子ども虐待防止のあり方について問題提起できるようにする。
到達目標	子ども虐待の問題を中心に、制度・実践の両面からその対応のあり方について考察することにより、以下の3つの目標を目指す。 1 現代の子どもと家庭が置かれている環境および課題を理解する。 2 子どもと家庭に関わる専門性の高いソーシャルワーカーとしての実践力を培う。 3 各自の研究テーマと研究方法を設定できるようにする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：院生の研究テーマや研究関心にそった文献紹介、検討課題発表、ディスカッション</p> <p>第3回：院生の研究テーマや研究関心にそった文献紹介、検討課題発表、ディスカッション</p> <p>第4回：院生の研究テーマや研究関心にそった文献紹介、検討課題発表、ディスカッション</p> <p>第5回：研究テーマ、研究領域、研究方法のアウトライン</p> <p>第6回：研究テーマに関わる先行研究のリストアップ</p> <p>第7回：研究テーマに関わる学会動向における特徴や傾向、問題点と課題</p> <p>第8回：代表的な先行研究の分析と評価</p> <p>第9回：論文の主要概念および研究枠組みの検討</p> <p>第10回：既存の調査報告書、代表的論文の特徴と評価</p> <p>第11回：子ども家庭福祉における研究テーマに関わる実態と政策動向</p> <p>第12回：代表的な著作の選択と根拠</p> <p>第13回：社会福祉実践の現場におけるレポート、実践記録、報告書の分析と評価</p> <p>第14回：子ども家庭ソーシャルワークの課題</p> <p>第15回：博士論文の構成、活用すべき資料の整理と検討</p> <p>子ども家庭福祉特講は、院生の研究テーマ、関心のある分野・領域に関連した事柄を取り上げ進める。前半の第1回～4回は、関連分野の最新の論文を抄読し、研究課題とその解決理論と方法についてディスカッションを行う。</p>

学修方法	一方的な講義のみならず、適宜各自がまとめたレポートを用いながらディスカッションの時間を多く持ち、アクティブラーニングの手法を導入する。
評価方法	レポートや博士論文検討会の発表 50%、論文の進行 50%
課題に対するフィードバック	レポート内容の評価を提出授業内に行う。さらに、必要に応じ面談やメール等でのフィードバックを行う。
指定図書	才村 純『子ども虐待ソーシャルワーク論』有斐閣
参考書	藤岡 孝志 『これからの子ども家庭ソーシャルワーカー –スペシャリスト養成の実践–』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：教科書の指示した部分を読み把握する。(40分) 事後学修：講義内容について、振り返り整理しておくこと。(40分)
オフィスアワー	研究室(2610)にて、自由に研究相談に応じます。 時間等については、初回授業で提示する。

科目名	子ども家庭福祉特講演習
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる
科目概要	本講義では、博士論文作成に向け、院生とディスカッションしながら進める。特に、博士論文のテーマに関する主要概念や研究枠組みの検討を行い、研究方法の独自性や先見性を問いながら進める。具体的には、文献や先行研究を調べ、まとめ、発表、議論を行い、これらを通して知識を深めていく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭福祉学における高度な専門性を探求する。 2. 研究課題の解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法について検討する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、関心のある研究テーマとディスカッション</p> <p>第 2 回：関心のあるテーマに関する文献の検討</p> <p>第 3 回：関心のあるテーマに関する先行研究の検討</p> <p>第 4 回：研究目的の明確化</p> <p>第 5 回：テーマに関する主要概念の検討</p> <p>第 6 回：テーマに関する主要概念の検討</p> <p>第 7 回：テーマに関する主要概念の検討</p> <p>第 8 回：テーマに関する研究枠組みの検討</p> <p>第 9 回：テーマに関する研究枠組みの検討</p> <p>第 10 回：テーマに関する研究方法の検討</p> <p>第 11 回：テーマに関する研究方法の検討</p> <p>第 12 回：テーマに関する研究計画書の検討</p> <p>第 13 回：テーマに関する研究計画書の検討</p> <p>第 14 回：倫理申請書の作成①</p> <p>第 15 回：倫理申請書の作成②</p>

学修方法	各自の研究発表およびディスカッションを中心とし、適宜、先行研究等のミニ講義を行う。
評価方法	博士論文作成に向けた準備、取り組みを評価する。(100%)
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談、またはメール等でフィードバックする
指定図書	特に、指定なし
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：シバスに示した該当箇所を討議できるようにしておくこと。(40分) 事後学修：授業内容について、振り返り整理しておくこと。(40分)
オフィスアワー	研究室(2610)にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業時に提示します

科目名	高齢者・障害者福祉特講
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2単位(30時間) 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	本特講は、高齢者福祉の課題と社会的役割について、高齢者(障害高齢者含む)の自立を支える社会的支援、および家族の役割と機能について、基本的な知識を修得し、理解を深める。さらに、日本の高齢者福祉の変遷を学び、今後の対応について考察する。また、世界的に高齢化が進む現状の理解と、諸外国の対応を考究する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本社会の人口動態の変化に伴う高齢者福祉ニーズを理解する。 2. 超高齢社会における高齢者の扶養について理解する。 3. 老親扶養の家族と公私の役割機能に関する問題点と課題について理解する。 4. 高齢者に関する制度・政策について内容理解と共に、史実的な理解を深める。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： 高齢者・障害者福祉の課題</p> <p>第2回： 高齢者福祉の起源と変遷</p> <p>第3回： 高齢者福祉の社会的役割</p> <p>第4回： 現代日本社会における、高齢者(障害高齢者含む)福祉のニーズ</p> <p>第5回： 現代日本社会における、高齢者福祉の機能</p> <p>第6回： 介護保険の発足とその仕組み</p> <p>第7回： 介護保険の役割と機能</p> <p>第8回： 介護保険運用の実態と現在の課題</p> <p>第9回： 日本の高齢者福祉問題の諸相</p> <p>第10回： 超高齢社会日本の今後の課題</p> <p>第11回： 欧米先進諸国の高齢者福</p> <p>第12回： 欧米福祉国家の高齢者福祉の類型</p> <p>第13回： アジア諸国の高齢者福祉と課題</p> <p>第14回： 介護従事者と外国人労働の課題</p> <p>第15回： 高齢者・障害者福祉の課題解決の方策</p>

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	特になし。
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	事前学習：先行研究のまとめを、簡単な論文形式にした発表資料を作成の上、講義に臨む。(60分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(20分)
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	高齢者・障害者福祉特講
科目責任者	横尾 恵美子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	本特講は、高齢者福祉の課題と社会的役割について、高齢者(障害高齢者含む)の自立を支える社会的支援、および家族の役割と機能について、基本的な知識を修得し、理解を深める。さらに、日本の高齢者福祉の変遷を学び、今後の対応について考察する。また、世界的に高齢化が進む現状の理解と、諸外国の対応を考究する。
到達目標	1. 日本社会の人口動態の変化に伴う高齢者福祉ニーズを理解する。 2. 超高齢社会における高齢者の扶養について理解する。 3. 老親扶養の家族と公私の役割機能に関する問題点と課題について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>1回： 高齢者・障害者福祉の課題</p> <p>第2回： 高齢者福祉の起源と変遷</p> <p>第3回： 高齢者福祉の社会的役割</p> <p>第4回： 現代日本社会における、高齢者(障害高齢者含む)福祉のニーズ</p> <p>第5回： 現代日本社会における、高齢者福祉の機能</p> <p>第6回： 介護保険の発足とその仕組み</p> <p>第7回： 介護保険の役割と機能</p> <p>第8回： 介護保険運用の実態と現在の課題</p> <p>第9回： 日本の高齢者福祉問題の諸相</p> <p>第10回： 超高齢社会日本の今後の課題</p> <p>第11回： 欧米先進諸国の高齢者福</p> <p>第12回： 欧米福祉国家の高齢者福祉の類型</p> <p>第13回： アジア諸国の高齢者福祉と課題</p> <p>第14回： 介護従事者と外国人労働の課題</p> <p>第15回： 高齢者・障害者福祉の課題解決の方策第</p>

学修方法	講義を中心に行うが、適宜「討議」を組み合わせる。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談やメール等でフィードバックを行う。
指定図書	随時紹介する。 この表記は不可!
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を調べる。(40分) 事後学修：講義内容について、振り返り整理しておく。(40分)
オフィスアワー	研究室(2710)にて自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示する。

科目名	高齢者・障害者福祉特講演習
科目責任者	野田由佳里
単位数他	1単位(30時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる
科目概要	当演習では、前期に修得した基本的な知見を基に、多くの文献・資料を読みこなし、さらなる考察と理解を深めることを目指す。履修生各自の研究課題に即したアプローチにより、毎週の発表、質疑応答、議論を通し、課題の理解と考察をはかる。それにより、各自の研究課題の追及、および課題の整理を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の研究課題を明確化する。 2. それぞれの課題について、文献検索、資料収集の方法を習得する。 3. 収集した知見を整理し、課題の考察を行う。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション、当該セメスターの達成目標を定める。</p> <p>第2回：履修生の問題関心に即し、研究テーマを設定する。</p> <p>第3回：各自の研究テーマを中心に、文献資料の検索を行う。</p> <p>第4～13回：検索した文献・資料に基づき、毎週文献を精読し、輪番で発表を行い、質疑応答を重ねる。様々な研究手法について通読する。</p> <p>第14～15回：今期セメスターに設定した研究課題をまとめ、各自が今学期の研究成果の発表を行う。その発表をまとめ、学期末レポートとして提出する。特に研究テーマに合致する海外論文(英文)のレビューを行う。</p>

学修方法	図書館を利用し、文献資料を検索し、資料を収集する。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	特になし。
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	事前学習：先行研究のまとめを、簡単な論文形式にした発表資料を作成の上、講義に臨む。(60分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(20分)
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	高齢者・障害者福祉特講演習
科目責任者	横尾 恵美子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる
科目概要	当演習では、前期に修得した基本的な知見を基に、多くの文献・資料を読みこなし、さらなる考察と理解を深めることを目指す。履修生各自の研究課題に即したアプローチにより、毎週の発表、質疑応答、議論を通し、課題の理解と考察をはかる。それにより、各自の研究課題の追及、および課題の整理を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の研究課題を明確化する。 2. それぞれの課題について、文献検索、資料収集の方法を習得する。 3. 収集した知見を整理し、課題の考察を行う。
授業計画	<p>第 1 回：オリエンテーション、今学期の達成目標を定める。</p> <p>第 2 回：履修生の問題関心に即し、研究テーマを設定する。</p> <p>第 3 回：各自の研究テーマを中心に、文献資料の検索を行う。</p> <p>第 4～13 回：検索した文献・資料に基づき、毎週文献を精読し、輪番で発表を行い、質疑応答を重ねる。</p> <p>第 14～15 回：今期セメスターに設定した研究課題をまとめ、各自が今学期の研究成果の発表を行う。その発表をまとめ、学期末レポートとして提出する。</p>

学修方法	図書館を利用し、文献資料を検索し、資料を収集する。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談にて課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	特になし。
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40分)
オフィスアワー	研究室 (2710) にて、自由に相談に応じる。時間については、初回授業時に提示する。

科目名	福祉工学特講
科目責任者	大川井 宏明
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	社会福祉学という専門分野に、福祉工学の視点を併せ持った指導者レベルの発想能力と人に伝える表現能力を培う。
到達目標	社会と人の現象を考察するにあたり、自然科学である医学と、自然・人文・社会科学である福祉工学の視点を盛り込んだ切り口をもって考察できるようになることを目指す。併せて、生命、諸産業等と融合した形で現在の社会と未来の社会を描き得るようになることを目指す。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：導入</p> <p>第2回：博士論文を視野に入れた社会学的問題点を提起する―問題点の分析。連鎖的（従属的）か並列的（複合的）か等。</p> <p>第3回：原因を考察する―問題となった原因が明らかか不明か、調査と解決方向のストーリーを描けるか。</p> <p>第4回：解決する方向と目標値を仮設定する―手法は確かか、ある程度進めてから定めるか。</p> <p>第5回：調査する方向を設定する―因果関係を考察し得る方法か。</p> <p>第6回：関連する先行研究を複数件調査する―因果関係、ストーリー、結論等の考察。</p> <p>第7回：上記文献で成した研究方法について考察する(1)―経緯と結論の表現の明確さ。</p> <p>第8回：上記文献で成した研究方法について考察する(2)―医学と福祉工学による視点の導入。</p> <p>第9回：上記文献で成した研究方法について考察する(3)―先行研究の視点と、医学・福祉工学による視点と比較検討共通点と相違点を抽出する。</p> <p>第10回：博士論文の題目と研究のストーリーを描く(1)―概略。</p> <p>第11回：調査方法の概略の考案し、参考の先行研究を選定する。</p> <p>第12回：先行研究を評価および批評する―従来の社会福祉学型視点と医学・福祉工学の視点。</p> <p>第13回：本研究の調査方法の概略の考案と先行研究との比較―従来の社会福祉学型視点と医学・福祉工学の視点。</p> <p>第14回：博士論文の題目と研究のストーリーを描く(2)―原因、方法、対策の主力の置き場。</p> <p>第15回：博士論文の題目と研究のストーリーを描く(3)―結論の具体的予測とストーリーの表現方法。</p>

学修方法	講義と討議。
評価方法	オリジナリティーの度合いと表現の明確さの度合い。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、メール、口頭等によつての講評する。
指定図書	なし。
参考書	なし。
事前・事後学修	事前学修：シラバスの流れに沿つた調査、考案、(40分) 事後学修：講義の復習。(40分)。日常的に身の道具や機械に関心を持つ。
オフィスアワー	2714室に表示する。

科目名	福祉工学特講演習
科目責任者	大川井 宏明
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる
科目概要	社会福祉学という専門分野に、福祉工学の視点を併せ持った指導者レベルの発想能力と人に伝える表現能力を培う。
到達目標	博士論文のストーリーを描くという自ら問題意識の高潮時に、従来型の研究視点を引継ぎ、か福祉工学の視点を盛り込み新たな切り口を開拓するという姿勢を作ることを目指す。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：導入</p> <p>第 2 回：博士論文の題目と研究のストーリーを描く－社会における個と医学福祉工学の視点による生命の尊厳。社会における独創性。社会的整合性。目標値(目標とする度合い)。</p> <p>第 3 回：博士論文の研究計画を具体化する－研究方法における社会福祉学的視点と医学福祉工学の視点。準備 (倫理的プロセス、調査・実験の時期と対象、方法等)</p> <p>第 4 回：先行研究を評価および批評する(1)－問題点、方法、結果にいたる各内容の因果関係とストーリー性。</p> <p>第 5 回：先行研究を評価および批評する(2)－従来の社会福祉学型視点と医学・福祉工学の視点。該当著者の視点と学生の新たな視点。</p> <p>第 6 回：調査・研究を実施し記録する(1)－データの質と量、その信憑性の確認。</p> <p>第 7 回：調査・研究を実施し記録する(2)－提起した問題点に答えうるか。</p> <p>第 8 回：調査・研究を実施し記録する(3)－データの公開範囲、プライバシー保護、独創性の確認。</p> <p>第 9 回：調査・研究を実施し記録する(4)－新たな結論を導きうるか。</p> <p>第 10 回：博士論文の草稿作成と不備の有無。</p> <p>第 11 回：草稿のストーリーを確認する－問題点に応じているか。結論の質。</p> <p>第 12 回：表現方法を作る(1)－従来の社会福祉学型視点と医学・福祉工学の視点。</p> <p>第 13 回：表現方法を作る(2)－文、文章、模式図、表等の使用方法。</p> <p>第 14 回：総合的に確認する。</p> <p>第 15 回：研究発表する。審査員の指摘を盛り込んで提出論文を作成する。</p>

学修方法	発表と討議を主とする。
評価方法	オリジナリティーの度合いと表現の明確さの度合い。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、メール、口頭等によつての講評する。
指定図書	なし。
参考書	なし。
事前・事後学修	事前学修：シラバスの流れに沿つた調査、考案、(40分) 事後学修：講義の復習。(40分)。日常的に身の道具や機械に関心を持つ。
オフィスアワー	2714室に表示する。

科目名	社会福祉学特別研究	
研究指導教員	大友 信勝、大川井 宏明、横尾 恵美子、野田 由佳里、藤田 美枝子 (研究指導教員は領域および課題により決まる)	
研究指導教員	太田 雅子、佐藤 順子	
単位数他	6 単位 (180 時間) 選択 通年	
科目の位置付	4. 自立した研究者として、独創的な研究テーマを設定し、その仮説を構築し、研究計画を立案することができる 5. 自らの研究を発展させ、研究計画に沿って仮説を実証するための研究方法を身につけ、データ収集、データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ、発表することができる 7. 学際的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と学術的な研究交流ができる	
科目概要	これまでの学習を踏まえて、各院生は特定の研究課題を選定し、研究計画書の作成、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する。その一連の過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。研究指導は、研究指導教員を中心に、社会福祉学分野の複数教員が協力しながら行う。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮については第三者評価を得て、資料収集を行う。 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	< 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 > 1 年次春semester: 保健科学研究方法 (質的研究法、量的研究法)、保健科学英語特講、前期課程開講の社会調査特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	<評価方法> 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)
	1 年次秋semester: 研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。	発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画の完成度 (70%)
	2 次春semester: 研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。	研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) 研究計画書の完成度 (60%)
	2 次秋semester: 適宜、指導を受けながら、データ収集および、副論文の作成、学会発表を行う。	データ収集の適切性 (70%) 副論文の作成、学会発表の達成度 (30%)
	3 年次春semester: 適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する	データ分析の論理性・技法の適切性 (100%)
3 年次秋semester: 第 3 者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。	論文の完成度 (70%) 第 3 者の評価による修正の適切性 (30%)	

学修方法	発表、ディスカッション、個別指導、講義
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談等でフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：シバスに示した授業内容に沿った該当箇所の学修（60分） 事後学修：授業内容について振り返り整理しておく（60分）
オフィスアワー	初回授業時に提示